

令和8年度 中野市総合教育会議 会議録

- 1 日 時： 令和8年8月19日(水) 午前10時00分 ～ 午前10時58分
- 2 場 所： 中野市役所4階 会議室42、43
- 3 出席者： 市 長 湯本 隆英
教 育 長 柴本 豊
教育長職務代理者 有賀 透 教育委員 武田 美穂
教育委員 齋藤 文子 教育委員 山本 浩二
副 市 長 竹内 敏昭 総務部長 栗林 淳一
教育次長 丸山 晃 学校教育課長 小林 英哉
学校教育課 総務係長 鈴木 洋二 副主幹 田村 由美子
- 4 傍 聴 者： 5名（うち報道関係1名）
- 5 会議事項： 進行 湯本市長

「中野市立小学校の統合について」、学校教育課長が資料1・資料2・資料3に沿って説明

湯本市長：中野市立小学校の統合について説明がありましたが、教育委員の皆さんから ご意見・ご質問など、お願いしたいと思います。

有賀教育長職務代理者：私は以前学校に勤めていたという関係がありまして、小規模校、中規模校、大規模校、いろんな学校に勤めさせてもらいました。特に小規模校は、小中併設校という形で小学校と中学校の人数を合わせて34名という、とても小さな学校に勤務したことがあります。乗鞍岳の麓の学校ですが、奈川や安曇と一緒にしろかという話も出てきました。いろいろと多様な意見に触れていかないと、少人数で保育園から一緒に小学校に上がって、そのまま中学校まで上がるということで、言い方はどうかと思いますが、Aさんは勉強ができる人、Bさんは普通の人、Cさんはいろいろと苦手な人というふうに、そういう感じのことが子供たちの中で根付いてしまっていて、できるAさんが意見を言った瞬間にそれで決まり、Aさんが言ったらそれで決まりということで、なかなか話し合いが深まらない、深い学びになっていきにくいということがありました。教師の力量もありますが、どうしてもその辺の所で深まりにくいというか、探究的な学び、それこそ思考・判断・表現という今一番大事にするべき部分が厳しい所もありました。ただし、小規模校はとてもいい部分があり、先生方が子供たち全員のことを知っていて、廊下でどうかしたのとか、休みの日にどこかへ遊びに行ったのとか、そうした声掛けをするなど、すごく優しさに包まれているという小規模校の良さということも当然ありました。ただし、先生の手が入り過ぎるという部

分もマイナス面で考えるとあって、知識・技能の所は人が少ない分だけ先生が入りますので、すごく身に付く良い環境ではありますが、そこから先の深い学びという、実際に知識・技能よりも今は思考・判断・表現、そういう探究的な学びでこれからの時代を生きていく、そういう子を育てようということで、文部科学省も県教育委員会も中野市もやっています。多様な意見に触れて、今まで小規模校でA君が意見を言った瞬間に終わっていた所が、A君がこう言ったけど僕はこう思うとか、それについてまたこう思うとか、いろいろな意見に触れながら、自分で考え判断し、そしてまた自分の意見を言うという表現力を付けていくことを考えると、適正規模的な部分の所というのは、これからを生きる子供たちにとっては大事になってくると思っています。一番やはり大事にしたいのは、多様な意見に触れる、これが私の中では、これからの子供たちの伸びる芽を育てていく大事な要素になってくると思います。持っている力を最大限伸ばしていく、探究的な思考・判断・表現を伸ばしていくためには、ある程度の適正な人数が必要であり、多様な意見に触れることが必要であると考えています。あと小規模校ですと、私が教頭だった時に少し困った部分は、不適応、不登校です。学校に馴染めない、教室に馴染めないとなった時に、本当に小さな学校でしたので、その家族関係もみんなわかっている感じで、あの家の子は今学校に行っていないらしいとか、例えば中野小学校だとすると、そういうことは薄まっていく部分があって、たくさん子供もいますし、いろいろな地域から来ていますので、薄まっていく部分があります。私の勤務した学校では薄まらなくて、本人の中では学校に復帰したいけれども、その所がうまく対応できなかったということもありました。心の中でうまくいかなかった時にはお家の方も苦勞するし、みんなで苦勞してやってきたということもありました。今言ったことを総合すると、適正規模の所で子供たちの持っている力を最大限発揮していく、そういう形がいいのかなと思っています。

斉藤教育委員：本日の中野市総合教育会議に当たり、以前から資料1の今後の児童生徒数の推移をお示しし、資料2のとおり学校統合についての説明をしてきました。また、小学生の保護者や児童にアンケートをとり、その意見を集約し、いろいろな意見について、みんなで話し合ってきました。今までの日野小において少人数でやってきた良いことを、統合して中野小に来た場合にも、うまく受け入れてもらったりしてもらえればいいと思います。全員が納得するのは難しいですが、そのようになるよう今後も努力していく必要があると思います。高社小学校の統合にも関わってきましたが、いろいろな経験をしてきた中で、今後課題が出てきます。スクールバスや放課後児童クラブの関係など、具体的なことを話し合っ、いい方向に進んでいってもらえればと思います。

武田教育委員：今回教育委員として学校統合のことに関わらせていただき、全国的に少子化が進んでいますが、中野市でも改めて少子化が進んでいるということを実感しました。何年前に日野小学校の運動会に参加させていただきましたが、人数は70名ぐらいで他の小学校の今まで見てきた運動会と違って、非常にアットホームでとても楽しい運動会でした。ただ、子供たちも先生もフル稼働で、休む暇なくいろんな競技に参加してという感じで、例えば、玉入れだと校長先生と教頭先生が籠を背負って逃げ回る中、子供たちが追いかけて籠に玉を入れていくという、他の小学校の運動会とはまた違った良さもありましたが、少人数なら

では大変さということも感じました。私は元々中野市の出身ではありませんが、住んでみて、言い方は悪いですけど、都会過ぎず田舎過ぎず、住むには非常にいいところ、いい規模だなと思います。子供の教育もしっかりしているところも感じますが、中野市のいろいろな小学校の歴史がある中で、だんだん人数が少なくなっていくと、どうしても小学校だけではできない部分ということも見えてきます。例えば、私も小学校、中学校に子供を預けた保護者として、人数が少なくなってくると保護者の負担も増えてきて、毎年のように何らかの役員をやることになったり、そうした大変さも感じていました。日野小学校の子供たちが少なくなっていく中で、今回中野小学校へ行くという過程になったことで、有賀職務代理者も言われていたように、危惧されるのは、大人数のところに入ったときに対応できなくて不登校になってしまう恐れがあるのではないかと思います。そうならないように私達もいろいろ考えていく必要があるかと思います。将来、子供たちが中野市の未来を担うためにどうしていったらよいのかということもみんなで一丸となって考えながら、より良い中野市にしていければいいと思いました。今回、中野市の歴史をまた築いていく一員として関わらせていただいたことに感謝しています。

山本教育委員：私は、豊田地域に住んでいまして、息子が小学2年生のときに、豊井小と永田小の統合を経験した保護者です。統合前は子供も保護者も統合したらどうなるのだろうと不安がたくさんありました。それらを1つ1つ話し合い、解決しながらやってきた中で、息子は昨年豊田小学校を卒業し、豊田中学校に上がりました。息子やクラスの子たちは、統合する前は友達が少なくて遊びたくてもなかなか遊べなかったり、いろんな地域に行きたくてもなかなか行けなかったが、統合したことで友達が増えてよかったとか、いろいろな人と一緒に学んだり遊んだりすることがすごく楽しかったということ、卒業式のときに、クラスで子供たち1人1人が話をするとき話していたことがすごく印象的でした。そうしたことを聞いたときに、統合というのはいろいろな不安があったり、いろいろな地域の思いがありますが、子供たちの「統合して良かった」という言葉を聞いて、統合はいいものだったという前向きな捉え方をすることができました。今回日野小が中野小の方に統合するという形ですが、豊井小と永田小は小規模同士が一緒になりましたが、今度は小さい所が大きい所と一緒にになるので、子供たちや保護者が不安や負担にならないように、スクールバスであったり、環境が変わる中で、常に情報共有をしたり意見をいただいたりするなど引き続きやっていただければ、すごくいいものになるかと思います。そもそも中学校では、延徳小も日野小も中野小も南宮中で一緒になりますので、そういう意味では、そこまでという形ではないと思いますが、しっかりと前向きに皆さんでまた1つ1つ協力しながら準備していただければいいと思います。

柴本教育長：私ども教育委員会としましては、先ほど学校教育課長からご説明しましたが、中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針に基づき、よりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を図るという視点に立って、児童生徒や保護者をはじめ地域の皆様と十分と協議を行いながら、日野小学校の今後のあり方について検討を進めてきました。中野市内の学校規模は隔たりがかなりあり、特に日野小学校の児童数減少が著しい状況にあって、協議を進めていく中でアンケートをとりました。小学校の保護者の方へのアンケートをとら

せていただいた時に、「学級の人数が少なすぎると感じたことはありますか」という設問に対し、日野小学校の保護者の約6割強の方が少な過ぎるという回答をくださいました。その前に6年生の子供たちにもクラスや学校の数が多いか少ないかと聞いたら、「僕たちこれで十分楽しいよ」と答えてくれたことがありました。子供たちにもアンケートをとりましたが、市内7校全てで6割以上の児童がちょうど良いという答えをしていました。他の環境を知らないわけですから、日野小学校は日野小学校でちょうどいいし、中野小学校は中野小学校でちょうどいいということで、子供たちは現状に満足している部分がありましたが、保護者の皆さんからすると、すごく不安を感じているということを強く感じました。この少人数というのは、先ほど武田委員からも話がありましたが、私も日野小学校の運動会に行ったときに、とてもアットホームな雰囲気とても楽しそうない運動会だと思いました。そうした状況ですから、先生の子供たちに届きやすいという、これは絶対的なメリットだと思いますが、先ほど有賀職務代理者もお話されましたが、人間関係が固定化してしまう、多様な意見に触れる機会が少なくなってしまうということがあります。現実には起こっていることは、クラス内での男女の人数の隔たりがあり、低学年のときは良くて高学年になったときに、この子供たちどうなるのかというような心配もあります。そうした中で、児童の保護者の皆様や地域の皆様といろいろ協議をさせていただいた結果、日野小学校は中野小学校へ編入するという形が良いのではないかとのご意見もいただきましたので、教育委員会としましても、日野小学校を編入する形で中野小学校と統合させていただきたいという方針を出させていただきました。このことが子供たちにとってよりよい教育環境の中に入って学べるのではないかと教育委員会としては考えていますので、是非そのような方向でお願いできればと思っています。

湯本市長：私の方から今まで出た話の中で、私も高社小学校の統合について当時市議会議員の立場でいろいろ見させていただきました。長丘小、平岡小、科野小、倭小の4校のうち、一番人数が少なかった倭小の中で子供が3人のクラスがありました。体育の授業の中で鉄棒をしたときに、男の子が1人、女の子が2人で、男の子は逆上がりをできたけど、女の子はなかなかできないことがありました。男の子はできたけど、女の子2人はできなくて困った、困ったと言っていて、1時間いくら教えてもなかなかできない。ある程度の人数がいれば、できる子とできない子がいても全然何というか困らないというか、居場所があるというか、少人数というのは非常に良いようで悪い。アットホームだけど、人数が多い中では自分の居場所がその中であって居ることができるけど、少ないとなかなかできない。あと、先ほど出ましたスクールバスの問題。最初は公共交通機関を使う話がありましたが、学校自体が閉校するのであれば、子供たちのことを考えてスクールバスを出した方がいいという当時の意見を受けまして、スクールバスをうまく巡回しながら、今もそうですが高社小学校へ通学する状況に変わりました。また、日野小学校に2回ほど、「小学生と市長との懇談会」ということで行かせていただきましたが、アットホームで本当に家庭的で、先生と子供の距離を考えると非常に近い。これはいいなと思いましたが、教育長が話していた、環境の違う大人数の中に入る、これから中学校、高校、大学、就職しても、今まで知らなかった1億数千万人のうちの全然出会わなかった人たちと出会う機会が増えていきます。今後いろいろな人たちと話す時にも、ある程度の適正規模の人数のいる所でないと、子供たちの先々のことを考

えると、なかなか将来の不安がつきまってしまうのではないかという意味で、今回出たものに関しまして皆さんのご意見をお聞きしました中で、なるほどなと感じた次第です。なお、資料1の令和12年、13年、14年の小学1年生の合計を見ていただくとわかると思いますが、令和12年が212人、13年が187人、14年が202人ということで、これは順に令和5年の中野市の出生数、次が令和6年で、令和7年は200人を超えましたので200人ちょっと、こういう数字になっています。旧中野市と豊田村の合併は平成17年ですが、次の年の平成18年の1年間で生まれたお子さんの数は404人だったということを考えていただきますと、市村合併して20年経って、生まれる子供の人数が半分に減ってしまったということは現実で、その辺を捉えていただいて、時代の流れの中で子供たちのことを考えていただいたうえでのものにしていただければと思いました。他にご意見がございましたらお願いします。

有賀教育長職務代理者：先ほど市長から鉄棒の逆上がりの話が出ましたが、これは個人スポーツ的な部分で、1人1人がここまでできたとか、うまくできたとか、ちょっとできなかったとかあります。もっと心配するのが集団的なスポーツです。ある程度の適正規模の人数がいないと、例えばクラスの人数が3人、4人ですと、ドッジボールをするときに2対2でやるとか、外野に人がいないとか、先生に入ってもら、空いている先生に来てもらって入ってもらふということになります。バスケットボール、バレーボール、ソフトバレーボールなどの集団的なスポーツでは、例えばAさんは上手だからAさんの所にボールがいかないようにしようとか、負けたから今度はこうしようとか作戦を考える。みんなで相談して、こうやっていこうというのは集団的なスポーツの部分で、やはり2人、3人、そうした人数になると、対戦ができなくなるので、これをやろうということも言えなくなります。やるとすれば、学年をまたいで低学年でやろうとか、高学年でやろうとか、種目によっては力の差があったりして、市長から話のあった体育の授業でも難しい部分になってくることが考えられて、「活動あって学び無し」といった形の授業になってしまう。負けたら何で負けたのか、次はこうしようとか、みんなで考えて顔を付き合わせて考えたことをやってみようということも、思考・判断に繋がってくるので、適正規模的な人数というのが必要となるということを教科の面から感じています。

湯本市長：他にございませんか。ありませんければ、「令和10年4月に日野小学校を中野小学校に編入する方式で統合する。」との方針を決定させていただきます。よろしかったら拍手をしていただければと思います。

(拍手)

湯本市長：ありがとうございます。今後は、この方針に則って学校統合を進め、教育環境を整備していくということで、お願いします。

6 その他

「中野市学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」、
学校教育課長が資料4に沿って説明

湯本市長：ただいまの説明について、ご意見・ご質問などございましたら、お願いします。

有賀教育長職務代理者：働き方改革ということですが、やはり先生方が元気でないと子供が元気にならないということで、朝から苦虫を噛み潰したような顔で教室に入ってきて、何か機嫌悪いぞという話になっては、子供たちにとって何もいいことないと思っています。教育長が風通しの良い職場ということをよく言ってくさっています。要するに、若い先生でもそうでなくても困っているとき、例えば、対子ども、対保護者、それ以外のこともあります。非常に困ってどうしたらいいのかというときに、今は全国的にもなかなか言えない。困っていることを例えば年齢が上の先生に、こんなことで困っていますということ。なかなか言えないということが問題になっています。それで、教職に就いたけれども途中で辞めてしまうということが、長野県は全国平均よりも辞める先生が少ないところで済んでいるという話ですが、そんなことで市役所もそうだと思いますが、困ったときに相談できる、いろいろな部分でそうすることによって、1人でも2人でも少しそうしたところで気持ちが晴れて、子供たちと向き合っていこうとなるのかなと思っています。昔の話をしてはいけないとよく言われますが、昔は例えば午後5時15分で終わって、子供が帰ったらみんなで体育館に集まって、バレーボールやろうとか、バトミントンやろうとか、月1回ぐらい職員レクの日ということをやっていました。それで、いつも本当に機嫌悪そうな顔をしていて、この人何でこんな機嫌悪いんだと思っていたら、バレーボールやってスパイク打ったら、よっしゃと言って、そういう所があるんだみたいな感じで、いろいろな面を見ることができる。そういうことで、ものも言わなかった人がよっしゃと言ってガッツポーズしたりして、この人は何かこういう良さがあるんだということで職員がまとまっていくような話ですとか、そういうようなところが昔はあって、職員がまとまっていけたという、本当に職場の風通しが良くなっていったということがありました。今は子供を帰した後、勤務時間外に何かやろうと言っても、残業増えるから早く帰ろうということで、なかなかできない。考えられるとすれば、5時限授業の日を増やす。ほぼ6時限ばかりなもので、うまく削って5時限の日を設けて、そこで先生方が教材研究したり、明日の授業の準備をしたりということもありますが、月1回ぐらいは、5時限の日に子供が早く帰ったら、レクリエーションの日ということで、みんなでバレーボールやバスケットボールなどをやって、楽しくてやってよかったとか、いい汗かいてまた頑張ろうみたいなことがあればと、なかなかそのようなことは難しいと思いますが、何とか学校の方でこの会議は削って5時限にしようという形でやっていくように、教育委員会の方でも学校と相談していきながらやっていければと思っています。私が校長をやっていたときは、例えば年1,085時間の授業を文部科学省でやりなさいとなったら、大体25時間ぐらいプラスしてやってもらっていました。インフルエンザで5日間学校閉鎖ということもあるし、いろいろなことがあって、特に中学3年生が入試のときに、最後まで終わってなかったということでは非常に困る。25時間ぐ

らい余剰を取っておくと、5日間、台風とかで学校閉鎖、学級閉鎖になったときでも、それに対応できるということでやっていました。本当に必要かどうか、行事の精選とか、いろいろなことをして、そういう時間を作ることによって、先生方の心の健康、体の健康が少しだけかもしれませんが、改善される見込みがあるのかなと思っています。

山本教育委員：先生たちはすごく残業したりして大変だなということは、私今年から豊田中学校のパソコン部の地域展開で、パソコンクラブという形で引き受けて、週1回クラブ活動をやっている中で感じました。週1回でも子供たちに対して教材を作ったり、子供たち1人1人考え方が違う、進め方が違うということで大変なのに、先生たちは毎日やっていると、時間が絶対足りないなと思いました。日々の業務に追われ、残業して教材作って、いろいろ研究をして、保護者の対応もして、部活動は離れますけど、部活動もやってというのは大変だと、週1回やっているだけでもすごく思いました。こういう形で少し余裕を持たせてもらえるような形がベストだと思います。ICTとかデジタルと書いてありますが、いろいろな先生とお話をする機会があるなかで、実際どうやったらどのようにできるのか、そもそもどう質問していいかわからない、デジタルでどのように効率化できるのか、どこまでやれば効率化できるのか、そういう所がまずわからないという先生の話の聞いたりしています。そういう意味では、教育委員会や市の方で、このようにやったらこんな業務改善ができるとか、教材の作り方をもっと充実させることができるとか、今後、先生たちに支援していただけるとすごくいいのかなということを、クラブ活動をする中で考えていました。

柴本教育長：今回この実施計画を策定するに当たり、国の方から指導があったわけですが、今までも時間外在校時間が月45時間以上、月80時間以上ということで毎月調査をしています、その時間を超えてしまう先生方が何人かおられます。今回実施計画を作ることによって、1つの目標ということで作らせていただいたところです。特に先ほど説明にもありましたが、2ページの学校以外が担う業務で、まず学校運営・経営というのは校長先生が一手に担っていただいているわけですが、学校の中で解決できないことも多々あります。中野市教育委員会が私自分でいいなと思っていることは、何かあれば指導主事の先生に学校に入ってください、まず困り事の解決に動いていただくということで、困っている先生を孤立化させないということを、今市教委とすれば一番に考えているところです。ですから、校長先生の所で話を止めておくと、保護者からこちらに話があってもわからない、何かあれば必ず私のところに話を通してくださいということで、風通しよく教育委員会と学校が平らになるように、やらせていただいているところです。教育委員会としては、学校を孤立化させない、先生方の負担を少しでも軽減させたい、教師の皆さんが健康でなければ子供たちにいい影響があるわけがなく、私どもとすれば、「子供たちが楽しい学校を」ということを最大の目標にしていますので、この実施計画に基づき、先生方の働き方改革につながればいいということで策定しましたもので、よろしくお願いいたします。

齋藤教育委員：子供にゆとりの時間ということで、土曜日に学校が休みになった経過も経験して、ちょうど土曜日の授業が終わると、午後にクラブがあつて、おにぎりか何か持って行って、みんなで午後のクラブを楽しんだりした時間もありました。子供に対してゆと

りの時間を設けたけど、教師に対してゆとりの時間があるかどうか考えたときに、信州型コミュニティスクールに参加したとき、先生に対してのいろいろな項目のアンケートがあって、精神的、肉体的に困っていることありませんかとか、何か相談窓口ありますかなどという、そのような項目のアンケートがありました。職員会議のときではなくて、先生が困っているときに、本当に誰に相談していいのか、自分1人で抱え込まないで相談できる場所があればいいと思います。また、こんなことを校長・教頭に言ったらまずいかなと思う方がいるかもしれない。ちょっとした小さなことが大きくなってしまいうこともあるし、精神的に病む先生も今いる時代ですので、そういうことがないようにやっていってもらえればありがたい。

地域ボランティアに私も参加していますが、一例としましては、落ち葉掃きを高社小で自ら何人かでやっています。天気がいいとき暑くないときに1時間ぐらいやろうということで、1人でやっていたときに、ちょうど子供が来て、斎藤さんと一緒に落ち葉掃きをやりたいと、教頭先生に次の授業の代わりに落ち葉掃きをやりたいと言って、校長先生にお願いしてまでやってくれた事例がありました。落ち葉を掃くだけでなく、グループになって、袋を持ってくる子、落ち葉を詰める子、それを運ぶ一輪車の子とか、いろいろ分れてやったときに、子供たちと地域が関わることは、こんなに大事なことなんだと思いました。そういうことも本当にボランティア活動もできる人ができるときにやればいいことで、そんな負担に思わないように、学校側も地域の方に流してもらえればという話をよくしています。学校で田んぼのこともリンゴのことも、いろいろなことに関わるのができたらいい。地域で子供を育てるには、配信を変えてもらうとか、地域に流してくださいということを学校にお願いしていますし、今後もそうしたことをお願いできればと思います。

湯本市長：他にございませんか。ありませんければ、こちらの計画に沿って、働き方改革の取組を推進していただければと思います。本日の会議では教育委員の皆さんから貴重なご意見をいただきましたが、今後も教育委員会と連携して教育行政を推進して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。